

「新入生セミナーB(英語教育専修, 2015年度後期)」: 授業評価アンケート結果とその考察

英語教育専修

「新入生セミナーB」は、科目分類上は共通教育科目であるが、各専修およびコースにおける学びへの導入として開講される必修科目である。ここでは、2015年度の英語教育専修の「新入生セミナーB」について取り上げる。なお授業の目標、到達目標、授業概要の詳細についてはウェブ上のシラバスを参照されたい。

今年度のこの授業は、初回に秋山から授業概要の説明を行うとともに、学生・教員の顔合わせを行った。その後2, 3, 4回を立松教員(英語教育学), 5, 6, 7回を池野教員(英語教育学), 8, 9回を秋山(英語学), 10, 11, 12回をBogdan教員(異文化間コミュニケーション), 13, 14, 15回を竹永教員(英米文学)が担当した。最終回授業時(16回)に、授業を振り返るワークシートの記入、提出をってもらうとともに、授業評価アンケートを行った。なお成績評価は平常点に基づいて行った。今回は、最終回授業時に行った授業評価アンケートの結果を公表し、簡単な考察を加えたい。授業評価アンケートの結果は以下の通りである(回答者数7名)。

A あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。(1. 全くそうは思わない(0); 2. どちらかというとは思わない(1); 3. どちらとも言えない(1); 4. どちらかというと思う(3); 5. 強く思う(2); 平均値: 3.86)

B 5人の教員が関わる授業である為、一概に言うのは難しいと思いますが、一般的に言うこの授業の難易度についてどう思いますか。(1. 非常に難しかった(0); 2. やや難しかった(2); 3. ちょうどよい(4); 4. 比較的やさしかった(1); 5. 非常にやさしかった(0); 平均値: 2.86)

C 5人の教員が関わる授業である為、一概に言うのは難しいと思いますが、一般的に言うこの授業で学んだ内容はあなたにとっておもしろい(知的好奇心をそそる、といった意味)ものでしたか。(1. 全くおもしろくなかった(0); 2. あまりおもしろくなかった(0); 3. どちらともいえない(1); 4. 比較のおもしろかった(5); 5. 非常におもしろかった(1); 平均値: 4.00)

D この授業を通して英語教育専修での学びについてのイメージを持つことが出来ましたか。(1. 全くそうは思わない(0);

2. どちらかというとは思わない(1); 3. どちらとも言えない(1); 4. どちらかというと思う(5); 5. 強く思う(0); 平均値: 3.57)

E この授業を通して英語教育専修で今後学んでいく意欲を高めることが出来ましたか。(1. 全くそうは思わない(0); 2. どちらかというとは思わない(0); 3. どちらとも言えない(1); 4. どちらかというと思う(3); 5. 強く思う(3); 平均値: 4.29)

F 最後にこの授業全体を振り返って、何か一言

質問Aについては、7人中5人が肯定的な回答(4あるいは5)をしているが、より多くの学生に高い意欲を持って授業にのぞむことを促す努力を継続していかなければならない。

質問Bについては、一応半数以上の学生が「ちょうどよい」を選択しているが、「やや難しかった」とした学生が2名いた。この点は今後の反省材料となるであろう。

質問Cについては、7人中6名が肯定的な評価をしていて、否定的な評価をした学生はいなかった。ほぼ全ての学生の知的好奇心を何らかの形で刺激することが出来る授業にはなっていたようである。英語教育講座で学ぶ学問分野は大学に入って初めて学ぶものがほとんどであるため、学生達の知的好奇心を刺激していくことが極めて重要と考えられる。今後もこの方向での努力を継続せねばならない。

質問Dについては、7人中5名が肯定的な回答をしたものの、否定的な回答をした学生が1名いた。専門的な学問分野についてのイメージは実際に本格的に取り組んでみないと分からない部分もあるであろう。

質問Eについては、7人中6名が肯定的な回答をしていて、否定的な回答をした学生はいなかった。ほぼ全ての学生が英語教育専修における学びに対する意欲を高めることが出来たと見てよいだろう。

アンケート結果から判断する限り、今年度のこの授業に対する評価はまずまずと見てよいが、一部に否定的な回答が見られたので、この点を今後の改善の糧としたい。

なお輪講形式の授業であることもあり、時間外学習については統一的なルールを今年度は設けなかった。